令和８年度　公共事業再評価調書

１．評価シート　　社会資本整備重点計画　始まる-29

事業名	農地整備事業［畑地帯総合整備事業（国補）］	事業箇所	笛吹市御坂町尾山　他	路線（川）工区名	みさか桃源の郷	事業主体	山梨県耕地課

計画期間	当初計画	現計画	変更計画
	H28 ～ R6	H28 ～ R8	H28　～　R12
総事業費	2,900百万円	2,900百万円	3,675百万円
B/C	1.4	－	1.4

（１）事業の進捗状況・変更内容

①進捗率（事業費ベース）　※R8の実績は見込

現計画　85.6%　実績　85.6%　変更計画　67.5%

②事業進捗（工事・用地）

区画整理において、換地計画の検討や地権者との調整に日数を要したことにより遅れが生じている。

③執行の見込み

区画整理において、換地計画の合意が得られたことから計画的かつ効率的な実施に努め、工期を4年延長し、令和12年度の完了を予定している。

④変更内容とその理由

内容	事業費増減	変更理由
事業期間延長	－	換地計画の合意形成に日数を要したことにより、工期を４年間延長
区画整理	252 百万円	労務費や建設資材費の高騰による事業費の増
畑地かんがい	40 百万円	労務費や建設資材費の高騰による事業費の増
農道	573　百万円	労務費や建設資材費の高騰による事業費の増 橋梁区間における地質調査結果に基づく橋台杭基礎の追加や、農道舗装における走行時の安定性を確保するため路床安定処理工を追加したことによる事業費の増
	-90 百万円	合意形成に時間を要する箇所の整備を本事業から見送ることによる事業量及び事業費の減
合計	775 百万円	

（２）評価時点の費用対効果分析

項目		事前評価時点	再評価時点
総事業費		2,900百万円	3,675百万円
工期		H28　～　R6	H28　～　R12
経済効率性	評価基準年	H27	R8
	B/C	1.4	1.4
	費用	2,560百万円	3,718百万円
	建設費	2,560百万円	3,718百万円
	便益	3,570百万円	5,164百万円
	走行経費節減効果	1,570百万円	2,317百万円
	営農経費節減効果	700百万円	815百万円
	作物生産効果	500百万円	1,094百万円
	その他	800百万円	938百万円

費用便益分析マニュアルにより算出　採択基準値１．０以上

※その他は、品質向上効果、一般交通等経費削減効果、国産農産物安定供給効果、維持管理費節減効果

（３）所管部の方針　**見直し継続**

残された路線については地域からの整備要望も強く、果樹生産の強化を図り、農業経営の安定化を実現するのに不可欠な基盤整備であることから、事業を継続し令和12年度の完了を予定している。

また、合意形成に時間を要し、今回実施を見合わせる箇所については、引き続き地域や関係機関と調整していく。

（４）変更履歴　有

区画整理において、換地計画の合意形成に日数を要したため、事業期間を令和8年度まで延長した。

２．評価シート（任意）

（５）事業を巡る社会経済情勢等の変化 有

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

合意が得られた区画整理や畑地かんがい、農道については、早期の整備が求められている。

②産業・経済情勢

労務費・建設資材費の上昇

③国等の方針

なし

④上位計画・関連事業計画等

やまなし農業基本計画（令和6年1月策定）

⑤自然環境条件等

なし

⑥その他

なし

（６）環境負荷等への配慮 無

（７）コスト縮減の可能性 無

（８）代替案立案の可能性 無

（９）事業概要の大幅な変化 無

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①事業の目的

変化なし

②目標・効果

変化なし

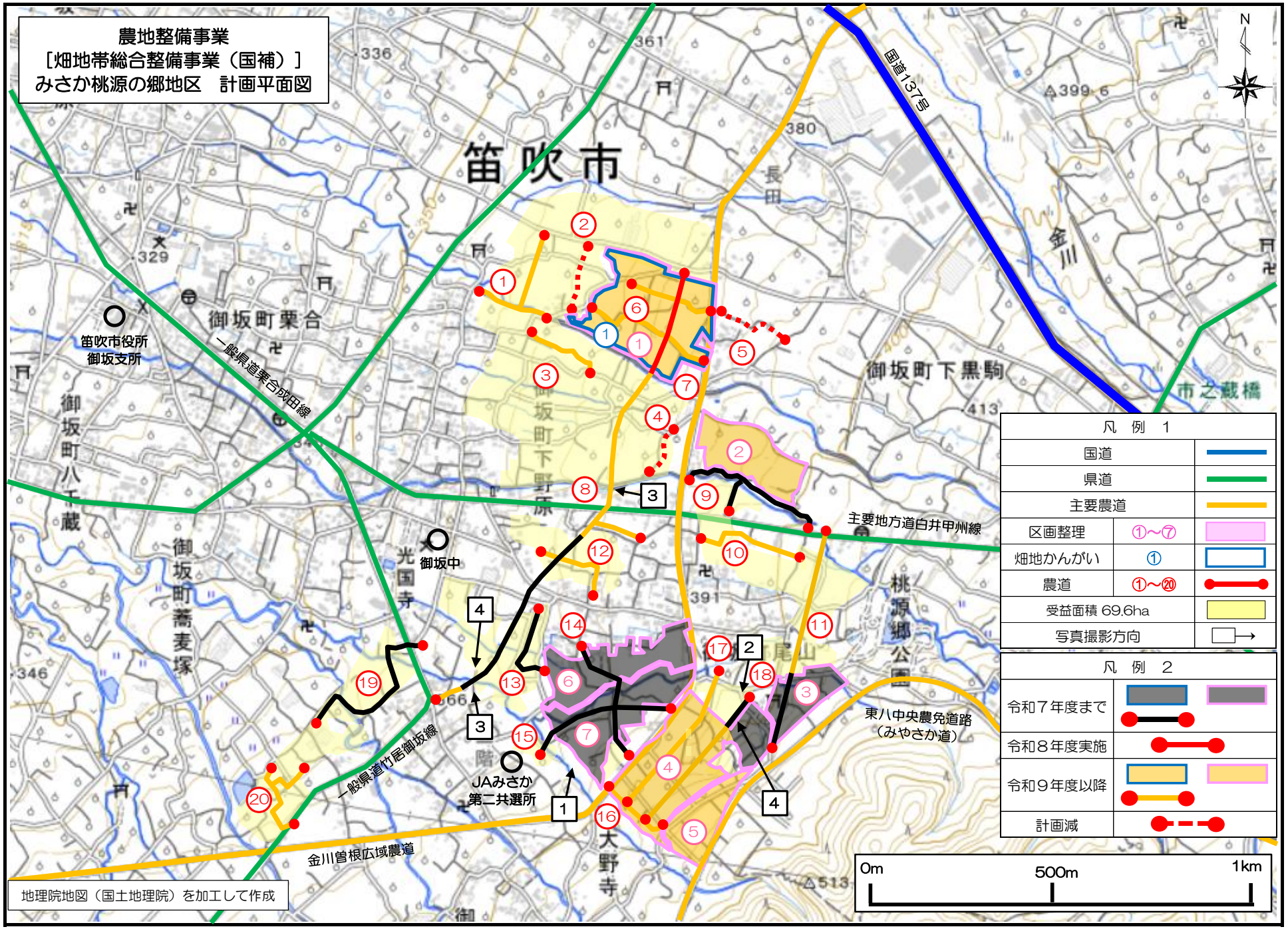
③整備内容

	現計画		変更計画
区画整理	A= 26.7ha	→	A= 26.3ha
畑地かんがい	A= 6.1ha	→	A= 6.1ha
農道	L= 7,540m	→	L= 6,960m

④特記事項（関連事業概要等）

なし

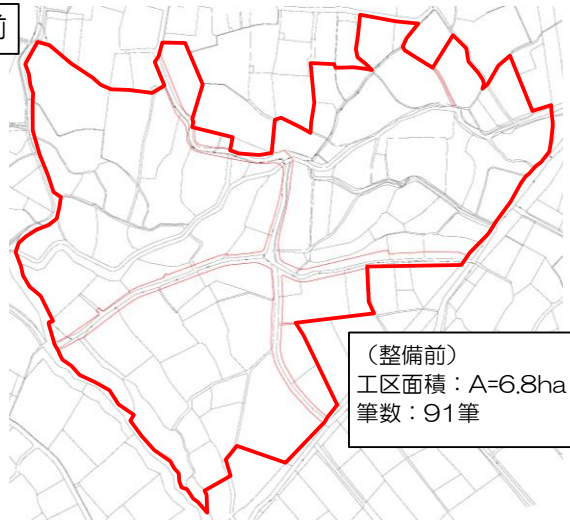
３．添付資料シート（１）


農地整備事業
［畑地帯総合整備事業（国補）］
みさか桃源の郷地区　計画平面図
笛吹市
御坂町栗合
御坂町下黒駒
御坂町下野原
御坂町八千蔵
御坂町蕎麦塚
笛吹市役所
御坂支所
御坂中
JAみさか
第二共選所
光国寺
大野寺
桃源郷公園
一般県道栗合成田線
一般県道竹居御坂線
主要地方道白井甲州線
東八中央農免道路
（みやさか道）
金川曽根広域農道
国道137号
金川
市之蔵橋
凡　例　1
国道
県道
主要農道
区画整理　①～⑦
畑地かんがい　①
農道　①～⑳
受益面積 69.6ha
写真撮影方向
凡　例　2
令和７年度まで
令和８年度実施
令和９年度以降
計画減
0m
500m
1km
地理院地図（国土地理院）を加工して作成

４．添付資料シート（２）

1 区画整理

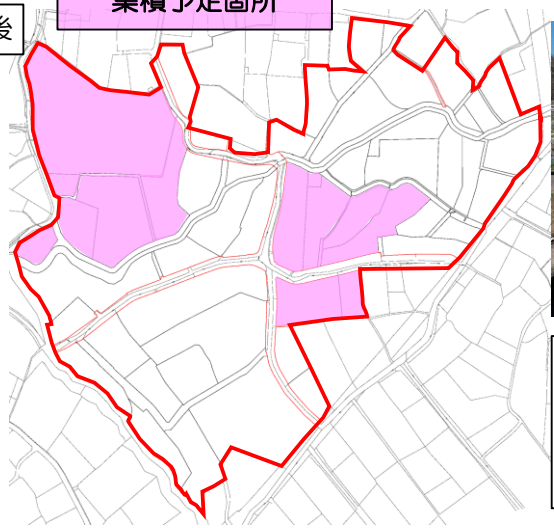
整備前



（整備前）
工区面積：A=6.8ha
筆数：91筆

整備後

担い手農業者への
集積予定箇所





（整備後）
工区面積：A=6.8ha
筆数：49筆
うち担い手農業者への
集積予定面積　：A=1.8ha

・整備前は農地が狭小で、車両が通行できる農道に接していないことから、営農効率の低いほ場であった。

・区画整理により営農条件が改善したことで、担い手農業者への農地集積が可能となり、果樹産地の維持や発展が図られている。
　また、農道に接したことにより、農業用機械の導入が可能となるなど、営農効率が向上している。

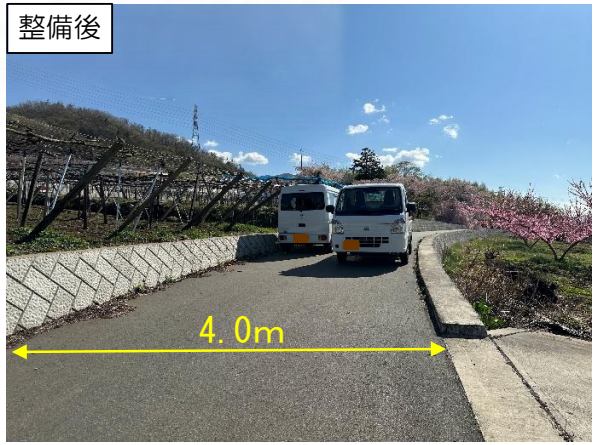
2 農 道

整備前



・幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり、また路面状態も悪いことから、荷痛みが発生していた。

整備後



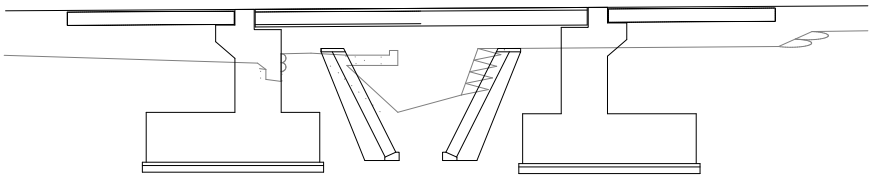
・農道の整備により車両のすれ違いが容易となり、走行時の安全が確保された。
　また農作物の集出荷においても荷痛みが防止され、作物の品質が確保された。

５．添付資料シート（３）

３　農道　増額理由

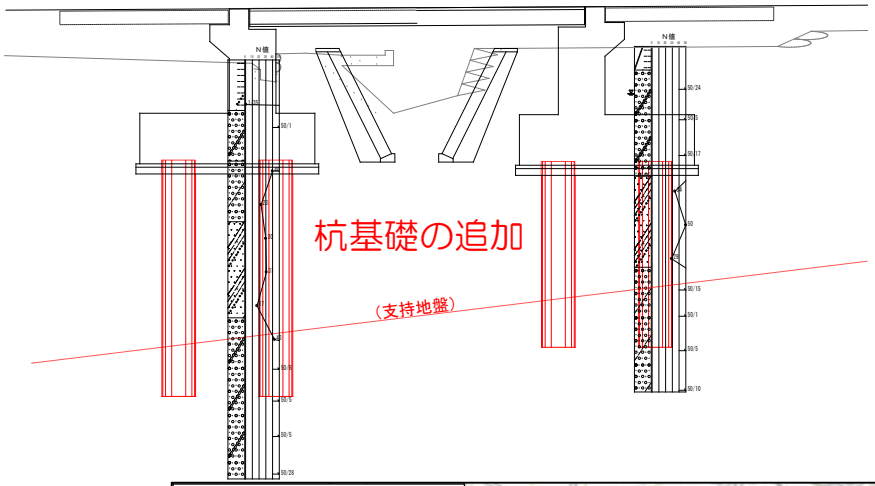
当　初

（橋梁断面図）



変　更

（橋梁断面図）

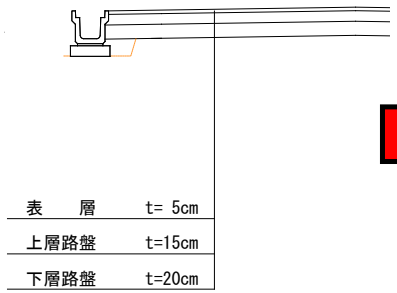


・農道の橋梁区間において、地質調査結果から支持地盤が深い位置であることが確認されたことから、杭基礎の施工により支持力を確保することとした。

４　農道　増額理由

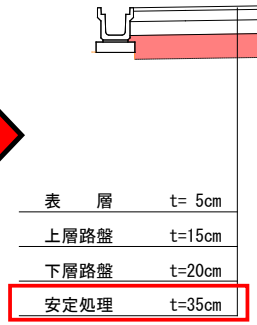
当　初

（舗装断面図）



変　更

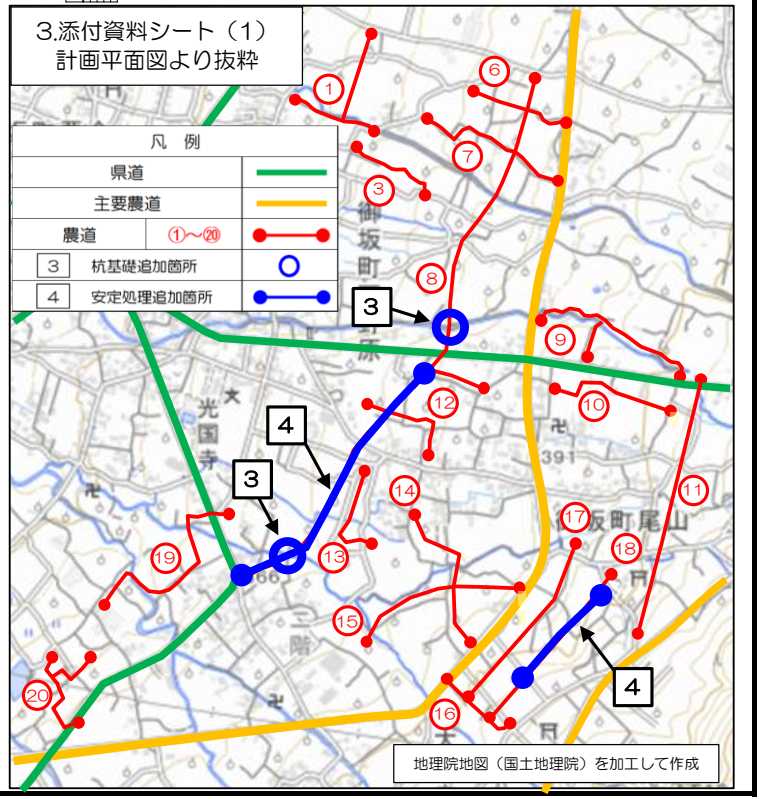
（舗装断面図）



・農道の舗装において、地盤が軟弱であることが判明したことから、走行時の安定性を確保するため、路床の安定処理が必要となった。



3.添付資料シート（1）
計画平面図より抜粋



【事前評価調書】

調査に関する事前評価済（H26）

平成27年度　公共事業事前評価調書

1．事業説明シート

（区分）国補・県単

事業名	畑地帯総合整備事業（国補）	事業箇所	笛吹市御坂町尾山　他	地区名	みさか桃源の郷（とうげんのさと）	事業主体	山　梨　県

（１）事業の概要

①課題・背景

本地区は、甲府盆地南東部、丘状扇状地に広がる、もも・ぶどうを基幹作物とする県内有数の果樹地帯である。

しかし、農業基盤の整備水準は低く、狭小で未舗装な農道や小区画で不整形な農地が多いことから、作業効率の低下や果樹品質の劣化を招いている。また、近年では農業従事者の高齢化に伴う担い手不足による遊休農地の増加が懸念されている。

一方、本地区は石和温泉郷と富士北麓地域を結ぶルートに位置し、また樹園地一帯の農村景観は、何世代にもわたり形づくられてきたものであり、今後も果樹農業を継承していくことで世界に誇れる地域資源としての活用が注目され、多くの観光客の来訪が期待される。

このことから、農道整備・区画整理等の基盤整備を一体的に行い、農作業の効率化や農産物の安定的な生産を図り、農地集積による担い手の経営規模拡大等を推進していくとともに、観光農業との相互連携を強化することで、継続的な地域農業の発展と地域振興が図られるものである。

②整備目標・効果

□主要目標　○農業生産力の向上

・農業所得の増加額　1,357千円/ha ≧ 703千円/ha　※

□副次目標　○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上

・対象路線の幅員4m以上道路延長率　100.0% ≧79.5%　※

○農業用排水能力の向上

・施設老朽度

-∞年 ≦ 0年　※

・用水能力向上率

（計画用水能力0.121㎥/s）÷（現況用水能力0.11㎥/s）

=1.1㎥/s≧1.0　※

（※評価基準値）

□副次効果　○遊休農地の解消

○果樹園景観の保全

○重要プロジェクトとしての位置づけ

（新・やまなし農業施策大綱）

③目標達成の方法

区画整理 7箇所、用排水施設（畑地かんがい）1箇所、農道 20路線

（２）整備内容と整備量

①整備内容　区画整理26.7ha、用排水施設（畑地かんがい）6.1ha、農道7.5km

②整備期間　平成２８年度～平成３６年度

③総事業費　約２９億円

（国費14.5億円(5/10)、県費7.25億円(2.5/10)、市費等7.25(2.5/10)）

④全体計画

（年度別整備内容）		（事業費）
平成２８年度	測量、設計	５０百万円
平成２９年度	区画整理　農道	２００百万円
平成３０年度	区画整理 用排水施設 農道	４５０百万円
平成３１年度	区画整理 用排水施設 農道	４５０百万円
平成３２年度	区画整理 農道	４５０百万円
平成３３年度	区画整理 農道	４５０百万円
平成３４年度	区画整理 農道	３５０百万円
平成３５年度	農道	３００百万円
平成３６年度	農道	２００百万円

□既整備内容・期間・事業費

該当無し

（３）中・長期計画等の位置付け

新・やまなし農業施策大綱（H27～H31）

第一次笛吹市総合計画（H20～H29）

（４）事業位置等図



２．評価シート

（１）公共関与の妥当性（行政が行うべき事業か）　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

本事業は、食料・農業・農村基本法に位置づけられている農業の持続的発展、食料の安定供給、多面的機能の発揮に資するものであり、行政が行うべきものである。

（２）事業執行主体の妥当性（県が行うべきか）　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

本事業は、農業生産基盤を総合的に整備して農作業の効率化や農業経営の安定化を図るものである。

また、「土地改良法施行令」第５０条４項により県営事業で申請すべき事業要件にも合致している。このため県が主体となって行うべきである。

（３）経済効率性　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

・費用(C)＝２５.６億円

（内訳）区画整理８.３億円　農道１６.１億円　用排水施設１.２億円

・便益(B)＝３５.７億円

（内訳）作物生産効果５.０億円　品質向上効果４.０億円

営農経費節減効果７.０億円　維持管理費節減△０.５億円

走行経費節減効果１５.７億円　一般交通等経費節減効果１.８億円

観光農園転換効果２.３億円　果樹地域保全効果０.４億円

・費用便益比（B/C）＝１.３９

・費用便益比（B/C）は国の採択基準１.０を超えている。

（４）事業実施・規模の妥当性　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

地区内の営農条件改善に必要な整備量としている。

□同等施設等（計画を含む）の有無　〈有・無〉

（状況）

新設若しくは老朽化した既存施設の改修であり、機能を代替する施設はない。

□必要整備量の根拠

（状況）

区画整理：狭小で段差が多く作用効率が悪い農地や、担い手への農地集積で農作業の省力化ができ観光農園化を推進する農地を対象とした。

用排水施設：畑地かんがい施設が整備されておらず用水の安定確保に支障を来している範囲を対象とした。

農道：営農や農作物の運搬に必要な幅員が確保されていない農道を対象とした。また、観光農園へのアクセスの向上を図る農道網として必要な路線を整備する。

（５）整備手法の有効性　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

農業生産基盤を一体的に整備することで、営農条件が改善されるため、果樹農業の振興には最適な事業であるとともに、主に区画整理を進めることで担い手への農地集積も図られ、観光農園による農業経営の安定化が見込まれる。さらに持続的な農地の保全につなげるものである。

また、整備内容は施設の長寿命化やコスト縮減を考慮した計画としている。

□他の整備手法の有無　〈有・無〉

（状況）

果樹地帯の農業生産基盤を効率的、一体的に整備するには、本事業の他に適した事業はない。

（６）環境負荷への配慮　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

本事業の実施にあたっては、既存施設の改修を中心とすることで、環境への負荷の軽減を図る。

区画整理や農道工事では、土の切盛量を少なくするなど、現状の地形に応じた計画とする。

なお、工事による生態系、景観等への影響があると判断された場合には、回避、代替、低減などを踏まえた対策を講ずる。

（７）事業計画の熟度　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

事業の円滑な推進のためワークショップを開催し、合意形成が得られたものを整備対象とし、事業計画を策定した。

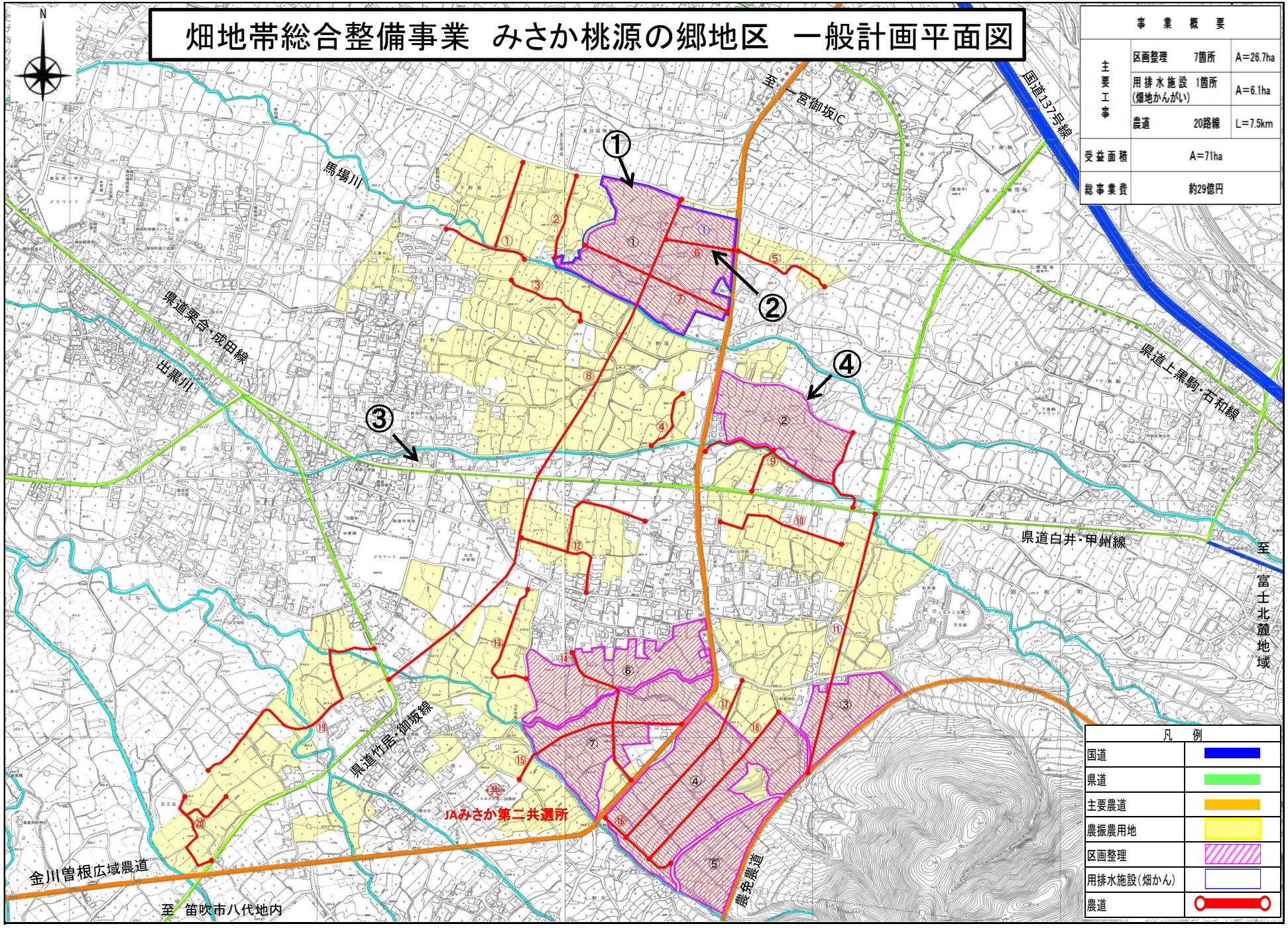
また、事業を進めるうえで地域間の連携や合意形成が重要であることから地区内の代表者で構成する「みさか桃源の郷地区土地改良事業推進協議会」を立ち上げ、円滑な事業推進を図るなど地元の熟度は高い。

《総　合　評　価》　〈妥当・妥当でない〉

（理由）

７項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。

添付資料シート（1）


畑地帯総合整備事業　みさか桃源の郷地区　一般計画平面図
N
事業概要
主要工事
区画整理　7箇所　A=26.7ha
用排水施設（畑地かんがい）　1箇所　A=6.1ha
農道　20路線　L=7.5km
受益面積　A=71ha
総事業費　約29億円
至 一宮御坂IC
国道137号線
馬場川
県道栗合・成田線
出黒川
県道上黒駒・右和線
県道白井・甲州線
至 富士北麓地域
県道竹居・御坂線
JAみさか第二共選所
金川曽根広域農道
至 笛吹市八代地内
農免農道
①
②
③
④
凡例
国道
県道
主要農道
農振農用地
区画整理
用排水施設（畑かん）
農道

添付資料シート（２）



①ほ場内の段差により除草や防除の作業効率が低下している。

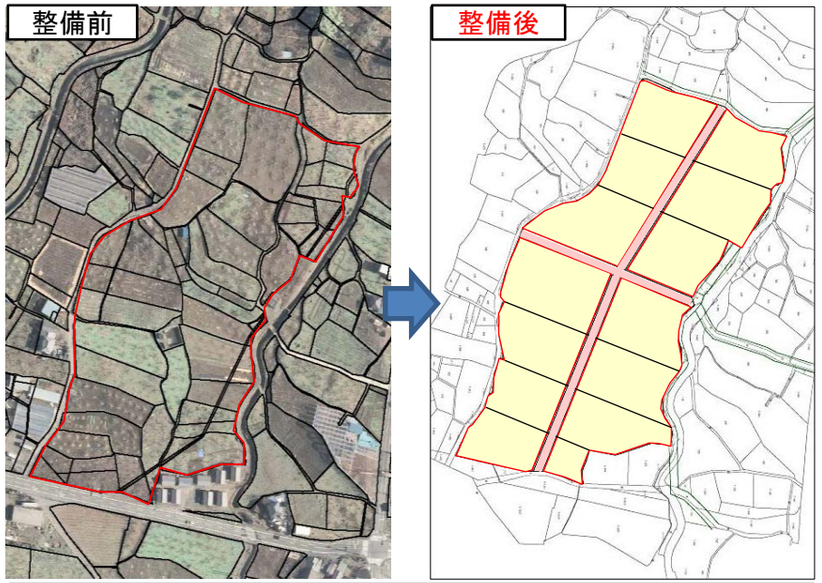


②未整備で狭小な農道が荷痛みの原因となっている。





③幹線農道沿いの観光農園は多くの観光客で賑わう。



④農道整備と併せ不整形で狭小なほ場を集積し、農作業の省力化と観光農園化を図る。